

熊本地震からの歩み

【平成28年熊本地震の概要】

被害状況:死者69人、行方不明者1人
住家被害149,611棟(6月29日現在) ※全壊、半壊、一部破損などの合計

- 4月 14日(木) 熊本地方でM6.5震度7地震発生(午後9時26分)
熊本県災害対策本部設置
自衛隊へ災害派遣要請
- 15日(金) 今回の地震を「熊本地震」と命名
義援金募集開始
- 16日(土) 熊本地方でM7.3震度7地震発生(午前1時25分)
- 17日(日) 避難者数最多183,882人
(午前9時時点)
- 25日(月) 激甚災害の指定を受ける
- 27日(水) 九州新幹線運転再開
- 29日(金) 九州自動車道全線通行止め解除
応急仮設住宅建設着手
- 5月 10日(火)~11日(水) くまもと復旧・復興有識者会議開催
- 11日(水) 県内全ての公立小中学校、
県立高校が授業再開
- 14日(土) 地震発生1カ月
- 19日(木) 天皇皇后両陛下が被災地をお見舞い
- 6月 5日(日) くまもと復旧・復興有識者会議開催
仮設住宅入居開始(甲佐町)
- 13日(月) 義援金が200億円超える
- 14日(火) 地震発生2カ月
- 19日(日) くまもと復旧・復興有識者会議が提言書を県に提出
- 20日(月) 「平成28年熊本地震 復旧・復興本部」設置



天皇皇后両陛下ご来県 5月19日

天皇皇后両陛下は5月19日に熊本県を訪れ、地震で被害を受けた被災者の方々を見舞われました。



「みんなの家」のある 仮設住宅

4月29日から着手し、6月5日から入居が始まった応急仮設住宅。入居者の絆を生み出す木造の「みんなの家」や小路のベンチ、あたたかみのある木の縁側、県産材の床・畳など、熊本らしさにあふれています。

仮設住宅の縁側で談笑する入居者の皆さん



平成28年 熊本地震

「みんなで乗り越える」



がんばるけん！
くまもとけん！

熊本地震からの復旧・復興に向けた「くまもん復興シンボルマーク」

平成28年4月14日から発生した熊本地震により、県内では住まいや道路、各種産業も大きな被害を受けました。県では復旧・復興に向け、さまざまな取り組みを進めています。



木のあたたかみがあふれる木造の応急仮設住宅(西原村・小森第1仮設団地)



入居者同士のふれあいの場となる「みんなの家」(宇城市・当尾仮設団地)

復旧・復興プランの策定を進めています！

熊本地震からの復旧や創造的な復興のあり方について議論する「くまもと復旧・復興有識者会議」を2回開催し、6月19日に、提言書をいただきました。この提言を踏まえ、復旧・復興プランの策定を進めていきます。

【提言内容】

- くらし・生活
 - 地域産業
 - 熊本城と阿蘇—人類的資産
 - 社会基盤
 - 復旧・復興に向けて
- ・住民に寄り添い、住民との協働による復興
 - ・従来の枠組みにとらわれない広がりのある復興
 - ・次世代に継承する復興
 - ・将来の躍進を見据えた復興
 - ・次の災害に備える復興
 - ・「オール熊本」による柔軟な復興
 - ・国・国民合意による復興



五百旗頭真(いおきべまこと)熊本県立大学理事長をはじめとする7人の委員によるくまもと復旧・復興有識者会議

詳しくはこちら [熊本地震 提言](#)

みんなで乗り越えていきましょう



熊本県知事 蒲島 郁夫

地震発生から3カ月が経ちました。改めて、今回の熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、安否不明の方とその御家族、そして、被害を受けられた全ての

皆様に、お見舞い申し上げます。
5月には、天皇皇后両陛下が熊本地震お見舞いのために、おいでになりました。被災者の方々をはじめとして、県民がどれほど勇気づけられたか知れません。両陛下のお心遣いに深く感謝いたします。
この大災害で、私は、熊本の美しい自然、おいしい水や食べ物など、当たり前であったことのありがたさを実感するとともに、改めて県民の皆様の豊かな人間性や地域の絆を強く知りました。このような素晴らしい郷土の復興こそが、私の使命であると決意を新たにしたいところです。
被災された方々の生活再建と被災地の創造的復興なしには熊本の発展はありません。そのため、現在、復旧・復興に向けた取り組みの方向性を示すプランの策定を進めています。
これまで、私たちを包み、育ててくれた「ふるさと」の傷を癒し、活力を取り戻すためには、県民の皆様の方が重要です。熊本の復旧・復興を成し遂げるまでの道のりは決して平坦ではありません。長い歳月を要するでしょう。しかし、「逆境の中にこそ夢がある」のです。みんなで、「チーム熊本」として、この困難を乗り越えていきましょう。